

令和7年度 後期授業評価の結果について

令和8年3月24日
宮城県南三陸高等学校 教務部

本校では、前期と後期の年2回、授業をよりよく改善していくために、教員の授業について、下記の①～⑭の項目に関し生徒による授業評価を行っております。
今年度の後期授業評価について、結果・分析がまとまりましたので報告いたします。

I アンケートの実施結果（教科別）

実施日 令和8年1月9日～3月1日

＊ 各項目について

【そう思う＝4 ややそう思う＝3 あまりそう思わない＝2 そう思わない＝1】と点数化し、それを平均したものが以下に示される数値です。その際、平均値は2.5になります。

『あなた自身に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	平均	今年度 （前期） の数値	昨年度 （後期） の数値
①先生の話を理解しようと努めている。	3.8	3.8	4.0	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.5	3.7	3.8	3.7	3.7
②分からないことは、誰か（先生や友達）に質問するようにしている。	3.3	3.2	3.4	3.3	3.4	3.5	3.4	3.3	3.2	3.3	3.4	3.3	3.4
③予習をして授業に臨んでいる。＊体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.1	2.3	2.2	2.2	2.2	2.3	2.2	-	2.7	2.4	2.3	2.1	2.2
④復習をして授業に臨んでいる。＊体育、音楽、美術については回答せず、保体は保健のみの数値。	2.4	2.5	2.6	2.4	2.3	2.6	2.3	-	2.8	2.5	2.5	2.4	2.4
⑤提出物の提出期限を守っている。	3.6	3.6	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.5	3.6	3.7	3.7

『先生や授業に関する質問事項』	国語	社会	数学	理科	英語	保体	家庭	芸術	情報	商業	平均	今年度 （前期） の数値	昨年度 （後期） の数値
⑥先生は十分な準備をしている。	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.4	3.7	3.8	3.8	3.8
⑦授業では大切なポイントが示されている。＊例えば、授業の始めに、その授業での到達目標が示されている。	3.8	3.8	3.9	3.8	3.7	3.9	3.8	3.7	3.4	3.7	3.8	3.7	3.8
⑧授業の進む速さは適切である。	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.8	3.8	3.7	3.4	3.6	3.7	3.7	3.8
⑨先生の指示がよくわかる。	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.3	3.6	3.7	3.7	3.8
⑩板書が見やすい。＊体育については回答せず、保体は保健のみの数値。	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.9	3.8	3.7	3.2	3.6	3.7	3.7	3.7
⑪先生は生徒の反応を大事にしている。	3.8	3.7	3.8	3.7	3.7	3.9	3.8	3.7	3.1	3.7	3.7	3.7	3.8
⑫使用している教科書や副教材は学習に役立っている。	3.8	3.8	3.8	3.6	3.7	3.8	3.8	3.7	3.5	3.6	3.7	3.7	3.8
⑬定期考査（または実技試験）の内容は、授業に沿ったものである。	3.8	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.7	3.5	3.7	3.8	3.8	3.8
⑭授業を通して得たものは多い。	3.7	3.8	3.8	3.7	3.6	3.8	3.8	3.7	3.5	3.6	3.7	3.7	3.7

⑮授業をよりよくするためにどうしたらよいか、意見や要望があったら書きなさい。

特になし。

2 アンケートの結果分析

【全体分析】

今年度の前期と比較し、「あなた自身に関する質問事項」の①、②、③、④の項目でポイントが上がっている。3年生は進路実現に向けて、1・2年生は次年度に向けて、意識を高くもって学習に取り組んだ結果だと伺える。 「先生や授業に関する質問事項」では、全ての質問項目で前期の数値と大きな変化はなかった。次年度は④の「授業を通して得たものは多い」のポイントが上がるような施策を各教科で考えていきたい。生徒が授業を通じて達成感を感じ、自信が深まり、それが行動変容につながるような好循環を生み出したい。生徒と教師がお互いに歩み寄りながら授業展開を創意工夫し、支援を受ける側と支援をする側の双方が達成感を感じられる授業を展開していきたい。	
--	--

【教科ごと】（項目1.データの分析，項目2.次年度の授業に向けての対策）

国語	1	予習をして授業に臨んでいる生徒や提出期限を守っている生徒が前年度より低下している。復習に関してはやや上がっている。家庭学習の習慣が身につけていないと推測されるので、授業中での声かけや課題に工夫をしていきたい。
	2	昨年度の数値から比べると改善されている箇所が多い。引き続き生徒の興味関心を高めて生徒にとって魅力のある授業作りをしていきたい。習熟度別で考えると上の層と下の層の幅が広がりがすぎている懸念があるので授業の中で改善していきたい。
社会	1	昨年度同様、言われた事は実行するが、計画的に授業に臨む生徒の割合が低く、継続的な家庭学習の定着が課題となっている。進路実現の為に計画的に授業に取り組む必要があり、担任等と生徒状況の意見交換をしつつ、課題等の精選を随時行いたい。
	2	授業への取り組みは良好な為、教科書や副教材の活用をしつつ生徒目線に立ち興味を引き付け、授業展開を工夫する事で主体的に学ぼうとする行動の手助けを行いたい。
数学	1	予習をして授業に臨んでいる生徒の割合が低いことから、家庭学習の習慣が身につけていない可能性がある。「先生の話を理解しようと努めている」が高いことから、授業中に理解しようと努めている可能性がある。
	2	提出物の期限を守っている生徒が多いことから、予習・復習に結びつく週末課題を行いたい。また、習熟度別指導を生かし、生徒の反応を大切にしながら、発問しやすい雰囲気作りを展開していきたい。
理科	1	「先生の話を理解しようと努めている。」「提出物の提出期限を守っている」生徒の割合が多く、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。しかし、予習、復習に取り組む生徒が少ない傾向がある。この傾向はここ数年改善されていない。先生や授業に対して、⑥～④において概ね良好であるが、⑧「授業の進む速さは適切である。」と⑫「教科書・副教材が役に立っている」の項目が若干低い。
	2	授業への取り組みは良好であるが、予習、復習については、生徒が主体的に取り組めるような教材等を工夫して、共有したい。授業については、教科書や副教材をより有効に使える手立てを考えていきたい。授業の進む速さについては、生徒の反応を客観的にとらえられるような方策を工夫したい。
英語	1	③についての値が低いが、英語科では予習を課しておらず、授業の中で教科書の英文を初見として読む指導を行っているため妥当な数値である。④の数値が低いので、生徒が達成感を感じる課題を用意し、定着を支援していきたい。
	2	④の数値が低いのが顕著である。次年度は、生徒のニーズを把握し、学習指導要領が求めるものと乖離がある場合は、乖離部分を説明し、生徒の納得感を大切にしながら、単元ゴールを設定していきたい。生徒の声もしっかりと聞きながらハンドアウト等も改善していきたい。
保体	1	昨年度と比べて、特に変化は感じられなかった。予習復習をする習慣はないが、「先生の話を理解しようとしている」「わからないことは、誰か（先生や友達）に質問するようにしている」の割合が高いことから、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。
	2	保健、体育共に授業への取り組みは良好である。今後も実生活との繋がりを意識し、ICTを使用してわかりやすい授業を展開していきたい。
家庭	1	生徒は全体的に意欲的に取り組んでいる。予習・復習に関しての項目の値がとても低い。
	2	提出物は期限内に提出すること、学んだことを家庭で実践することを継続して指導していきたい。
芸術	1	②のわからないことは誰かに質問しようとしているという項目にポイントのばらつきがあった。
	2	質問しやすい雰囲気作りや相談・対話の時間の設定、教員による声かけなどに努めていきたい。
情報	1	令和7年度前期授業評価(情報)の数値と比較すると、③・④のポイントが0.4～0.6ポイント上昇しており、生徒の学習意識が向上している。一方、⑥～④は0.2～0.6ポイント減少している。
	2	次年度はより実技を入れ、座学で学んだ知識を生かし、システムが動いたり構築される面白さや達成感を得られるような授業改善を図りたい。
商業	1	令和7年度前期授業評価(商業)の数値と比較すると、「③予習をして授業に臨んでいる」が0.3ポイント増加、「⑤提出物の提出期限を守っている」が0.2ポイント減少していた。その他は、横ばいであった。
	2	声掛けや調べ学習など課題の出し方を工夫することで、改善に取り組みたい。